
スポーツ・文化・ワールド・フォーラムについて

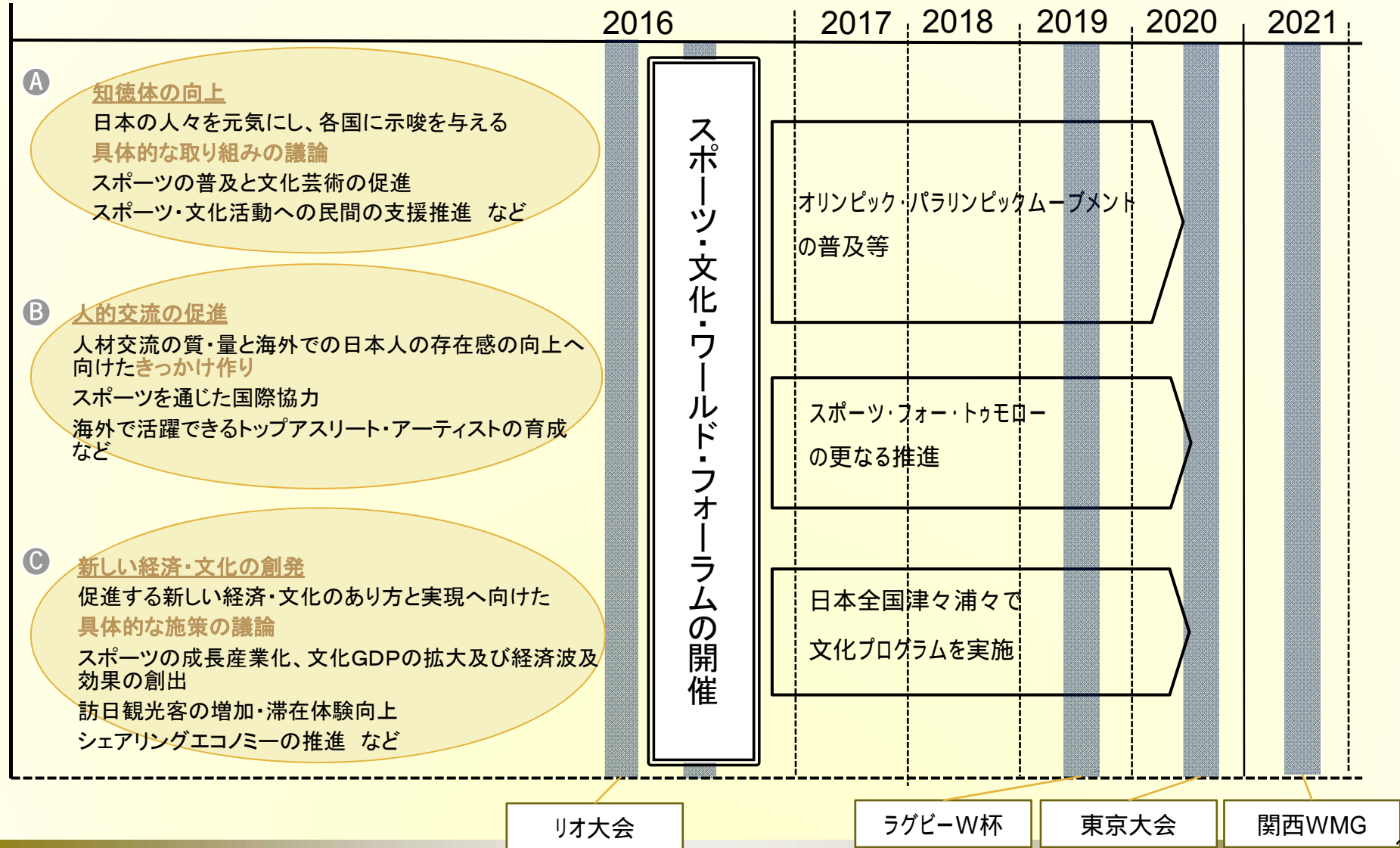
平成28年9月26日（月）

文部科学省



スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの目的

- ・「**A** 知徳体の向上」、「**B** 人的交流の促進」、「**C** 新しい経済・文化の創発」への新たな可能性と必要な施策について、日本を新しいパラダイムの事例としてアジア・世界の人々が体感・議論する
- ・その結果、誰もが直面している困難を乗り越える原動力へと変える、始めの一步を共に踏み出す



スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの概要

1. 目的

- スポーツ・文化を通じた「知徳体の向上」、「人的交流の促進」、「新しい経済・文化の創発」への新たな可能性と必要な施策について、日本を新しいパラダイムの事例としてアジア・世界の人々が体感・議論し、誰もが直面している困難を乗り越える原動力へと変える、始めの一步を共に踏み出す。

2. 開催趣旨

- ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスタースターズゲームズ2021等に向けて、観光とも連動させつつ、スポーツ、文化、ビジネスによる国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとしての国際会議を、2016年リオ大会直後の秋に、京都と東京で開催。

3. 主催

- 文部科学省を中心に、京都府・京都市、関係府省、経済団体、地方公共団体等の協力を得ながら、日本政府が主催。世界経済フォーラムとも連携。

4. 参加者

- 国内外のスポーツや文化を担当する大臣や国際的な振興団体のトップ
- グローバル企業の経営トップや世界経済フォーラムYGL、著名研究者および国内外主要経済メディア等

5. 開催時期・場所

2016年10月19日（水）～20日（木）：京都（ロームシアター京都等）
10月20日（木）～22日（土）：東京（六本木ヒルズ等）

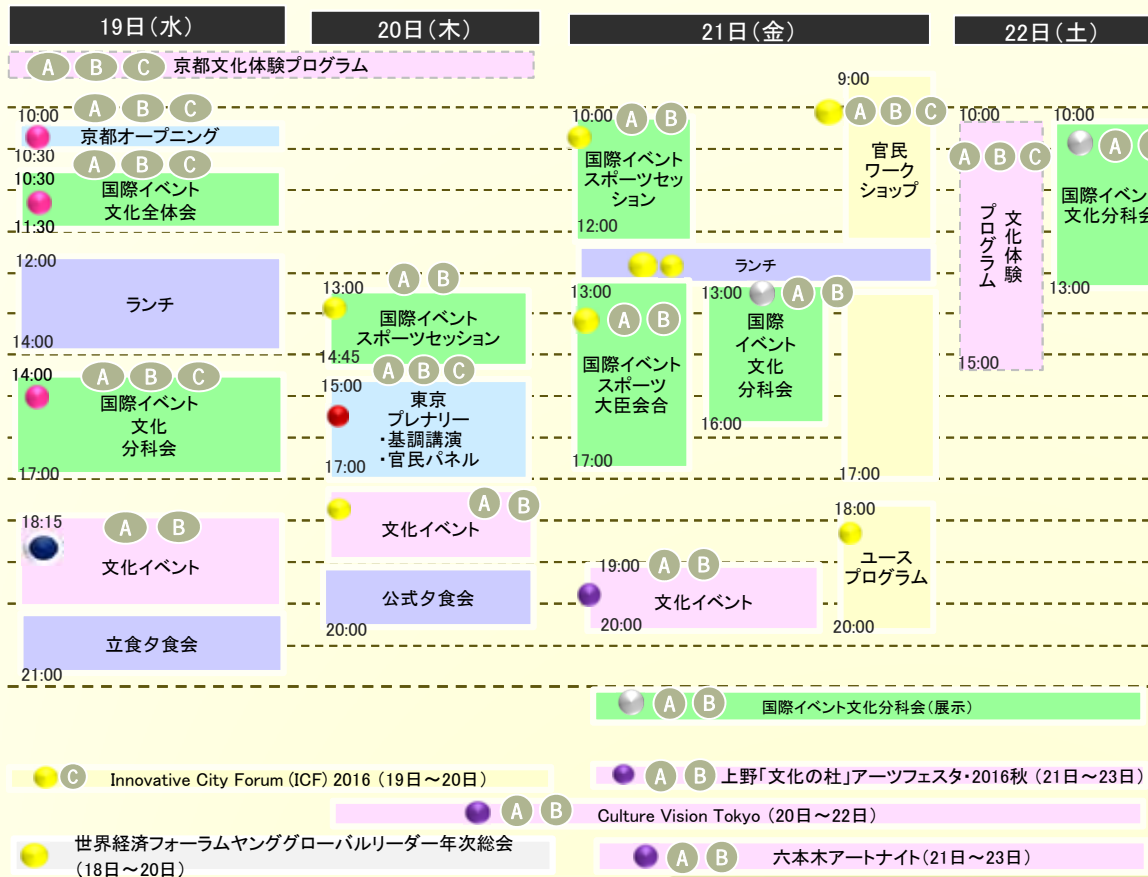
6. 会議内容・ テーマ（案）

- (1) 東京プレナリー・基調講演
バッハ・IOC会長、クレイブン・IPC会長、ボーマント・WR会長、シュワブ・世界経済フォーラム会長等
- (2) 国際イベント（例）
スポーツ・フォー・トゥモロー（スポーツ大臣会合の開催）
2019年ラグビーワールドカップ（ラグビーワールドカップ関連会議の開催）
障害者とスポーツ・文化（パラリンピック、障害者の芸術活動等に係る国際シンポジウムの開催）
2020年に向けた文化プログラム（国際シンポジウムの開催）等
- (3) 官民ワークショップ
世界経済フォーラムや民間団体等と連携して、2020年前後で実現したい目標に向けて官民で課題認識を共有し、連携して推進・実施していくべき取組を議論し、施策案を提言

7. 文化イベント・ 公式夕食会

- 歌舞伎、能、音楽、舞踊等のパフォーマンス（京都では世界遺産である二条城を活用）
- 六本木アートナイト等との連携、オリンピック・パラリンピアン等のアスリートが参加したイベント
- 公式夕食会

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの日程及び会場候補



会議

- ● 六本木ヒルズ
 - スポーツセッション(21日)
 - スポーツ大臣会合
 - グランドハイアット東京 3Fグランドボールルーム
 - 収容人数:シアター形式 904名
 - スポーツセッション(20日)
 - グランドハイアット東京2Fコリアンダー
 - 収容人数:シアター形式 224名
 - 官民ワークショップ
 - アカデミーヒルズ
 - タワーホールA、B、オーデトリウム 他
 - 収容人数:スクール形式 100名 他
- ● 国立新美術館
 - 文化分科会
 - 講堂
 - 収容人数:200名
 - ※分科会と連動した展示も開催(21日~23日)

ランチ

- 六本木ヒルズ
 - グランドハイアット東京
 - 2F&3Fホワイエ
 - 収容人数:立食 1,000名

メディアセンター、アクレディテーション、各種諸室

- 六本木ヒルズ
 - グランドハイアット東京
 - レジデンスバジル/レジデンスアニス 他
 - 面積:75~190㎡

● 京都会場

- ロームシアター京都
 - メインホール
 - 収容人数:2,005名
 - サウスホール
 - 収容人数:716名
 - ノースホール
 - 収容人数:約200名
- 文化イベント(京都)
- 二条城など歴史的施設での実施を検討

● プレナリー

- 六本木ヒルズ
 - シアター形式で計1,128名
 - グランドハイアット東京
 - 3Fグランドボールルーム
 - 収容人数:シアター形式 904名

● 文化イベント

- 森美術館
- サントリー美術館
- 国立新美術館
- 上野
- 東急文化村(渋谷)
- 六本木ヒルズアリーナ

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの京都日程イメージ

10月19日(水)

10月20日(木)

京都文化体験プログラム

<p>ロームシアター京都 メインホール</p>	<p>10:00~10:30 オープニング</p>	<p>尺八と京都市交響楽団の弦楽カルテットによる演奏パフォーマンス 開会宣言・文部科学大臣、京都府知事、京都市長、京都商工会議所会頭挨拶</p>					
	<p>10:30~11:30 文化会議 全体会</p>	<p>主な参加者: 地方公共団体、文化関係団体、企業、WEF(世界経済フォーラム)関係者等 約1000名 ※一般参加者も募集 内容: 文化芸術に深い見識を有する国内外の著名人による基調講演を行うとともに、2020年に向けて文化振興の機運を盛り上げ、文化による国づくりに取り組んでいくことを力強く国内外に発信する宣言を公表 登壇者: 千玄室 裏千家十五代・前家元/ユネスコ親善大使/日本・国連親善大使 山中伸弥 京都大学iPS細胞研究所所長、教授</p>					
<p>みやこ めっせ</p>	<p>12:00~14:00 ランチ 13:15~14:00 文化会議 分科会</p>	<p>ユネスコ無形文化遺産に登録された和食を代表する京料理等の提供、呈茶席、宇治茶・府内産品PR。 京都伝統産業ふれあい館(みやこめっせ内)での京都の伝統産品の紹介・販売 「創造都市ネットワーク日本(CCNJ)」の加盟自治体首長による文化プログラムに向けた取組紹介、「自治体サミット宣言(仮)」発表</p>					
移動							
<p>京都市内各所</p>	<p>15:00~17:00 (時間は分科会ごとに設定) 文化会議 分科会</p>	<p>分科会① 於: ロームシアター京都 サウスホール 地方公共団体、文化関係団体 等約400名+一般参加者 テーマ 文化芸術資源で未来を~輝き 続ける日本へ~ </p>	<p>分科会② 於: 京都文化博物館別館 地方公共団体、文化関係 団体、企業等 約100名 +一般参加者 テーマ 創造のためのアーカイヴ~ 文化芸術資源の活用による 新たな表現~ </p>	<p>分科会③ 於: 武道センター旧武徳殿 地方公共団体、文化関係 団体、企業等 約150名 +一般参加者 テーマ Culture induced Innovation (文化が革新を創造する)~ 伝統と革新~ </p>	<p>分科会④ 日本文化と雅 於: 仙洞御所等 海外政府関係者 平安時代以来の日本 の文化を再興し、雅の 境地を極限にまで高め た後水尾天皇の足跡を 辿る。</p>	<p>分科会⑤ クリスタルアワードとの 特別ワークショップ 於: 妙心寺 企業・文化関係団体等 WEFクリスタルアワード受 賞者3名による基調講演や パフォーマンス、京都の文 化や産業に精通するビジ ネスマンや経済界参加者との クロストークを開催。</p>	<p>13:00~ 東京 日程 開始</p>
移動							
<p>二条城</p>	<p>18:15~19:00 文化イベント</p>	<p>世界遺産・二条城 ○川井郁子ヴァイオリンコンサート~The Oriental Opera~ ヴァイオリニスト川井郁子氏が西洋のヴァイオリンと東洋の和楽器で紡ぐ オリエンタルコンサート ○~第三代將軍徳川家光による後水尾天皇への饗応を再現~ 国宝・二の丸御殿を活用し、三代將軍徳川家光による後水尾天皇へのおもてなしを再現 </p>					
	<p>19:30~21:00 立食夕食会</p>	<p>立食夕食会(参加者間のネットワーキングの場として活用)</p>					

京都市美術館をはじめ市内各所でのイベントと連携して、フォーラムのサイドイベントとして実施することにより、京都の都市全体でフォーラムを盛り上げることを検討。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの東京日程イメージ

10月20日(木)

10月21日(金)



13:00
～
14:45

会場：グランドハイアット東京 コリアンダー
スポーツセッション
「ラグビーの魅力・ラグビーワールドカップの力」
 アジア初のラグビーワールドカップの開催国として、ラグビーの魅力アジア等の国々へ伝承し、ラグビーの普及促進及びラグビーワールドカップの開催がもたらす国内外の社会的・経済的な発展の可能性等について議論を行います。
 【スピーカー案】ワールドラグビー関係者、英国ラグビーワールドカップ関係者、アジア・中近東等のラグビー協会関係者、我が国のラグビー関係者等
 【参加者】約300名(各国ラグビー関係者、ラグビーワールドカップ開催地関係者 等)

15:00
～
17:00

東京プレナリー・基調講演
 会場：グランドハイアット東京 グランドボールルーム
 京都での成果を引継ぎ、東京での開会を宣言するとともに、スポーツ界、経済界の代表より基調講演をいただく。
 海外からは、バッハ・IOC会長、クレイブン・IPC会長、ポーモント・WR会長、シュワブ・世界経済フォーラム会長がご出席予定。
 官民プレナリーパネル
 民間企業経営者等が大臣等とともに、ステージ上で本フォーラムへの期待や2020年の日本の姿についてご発言いただく。

文化イベント・公式夕食会

10:00
～
12:00

スポーツセッション
「オリンピック・パラリンピックがもたらすレガシー」
 会場：グランドハイアット東京 グランドボールルーム
 ロンドンからリオ、東京へ、そしてその先へ。伝えられるレガシーは何か。未来へ伝えるべきレガシーは何か。2020年に向けて、我々はどうのようなアクションを起こすべきか。「アスリート・ファースト」を掲げる東京大会において、様々なレガシーの中でも特にスポーツ分野に重点を置き、どのようなレガシーを残すべきかを考える。
 【スピーカー案】アスリート代表、IOC委員、IPC委員 等
 【参加者】約650名(各国スポーツ競技団体関係者、組織委員会関係者、自治体関係者 等)

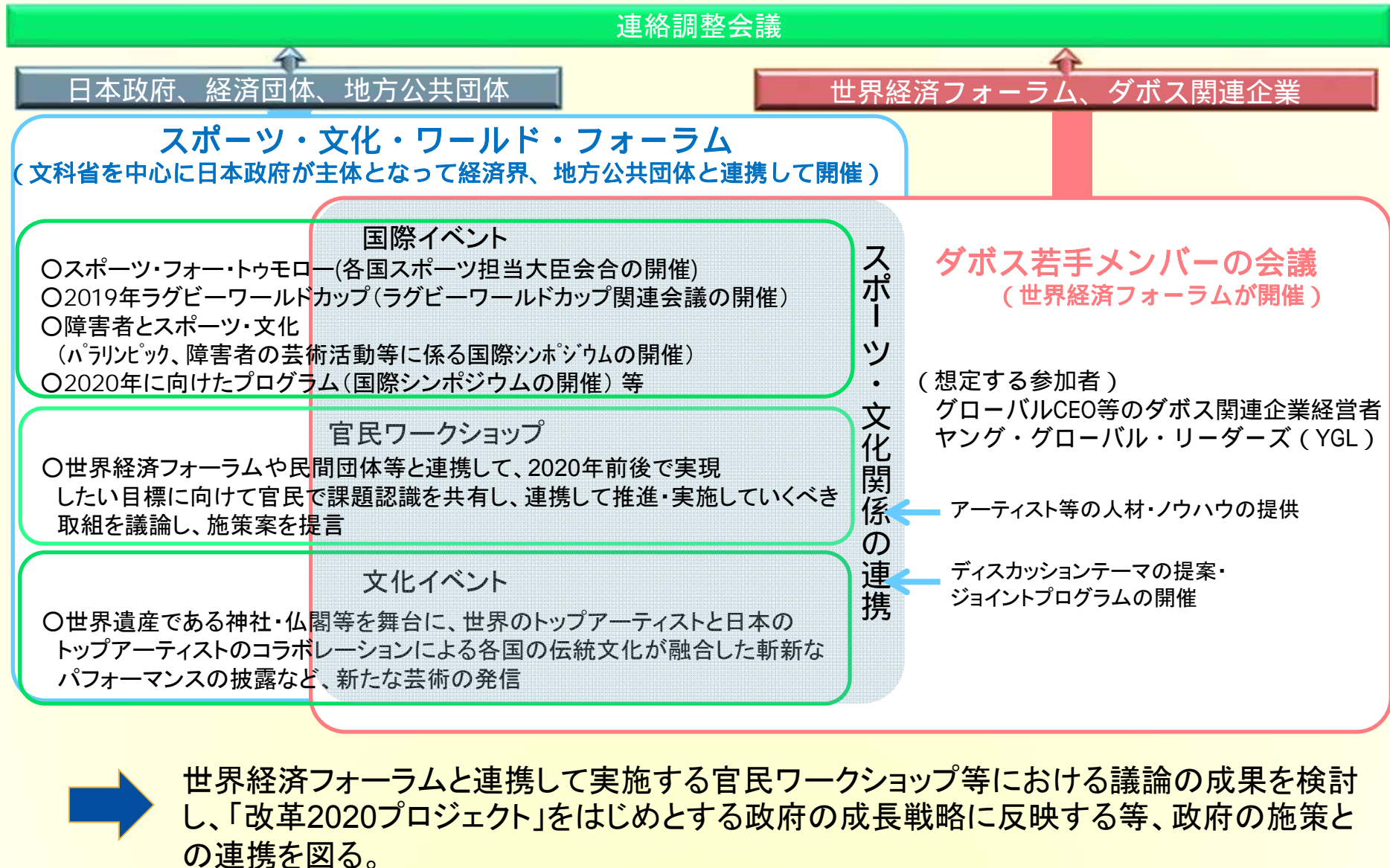
ランチ

13:00
～
17:00

スポーツ大臣会合
「Sport for Tomorrow」
 会場：グランドハイアット東京 グランドボールルーム
 多くの国際会議で「開発と平和のためのスポーツ」・「スポーツ・フォー・オール」・「スポーツのインテグリティ保護」が注目される中、我が国ではスポーツを通じた国際貢献としてSport for Tomorrowをはじめとした様々な取組を実践している。ユネスコ主催の体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPS)をはじめ、様々な国際的な場でスポーツの議論が活発化する中、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催国である日本から「スポーツの力」を発信することにより、2013年のMINEPS-Vで採択された、ベルリン宣言等のフォローアップを行い、今後の議論へと繋げる。
 【参加者】
 約650名(各国スポーツ担当大臣等、政府関係者、スポーツ競技団体関係者、自治体、国際機関、NGO関係者 等)
 【次 第】
 (1) 松野博一 文部科学大臣挨拶
 (2) 鈴木大地 スポーツ庁長官プレゼンテーション(SFTの取組について)
 (3) テーマ別セッション
 ① 開発と平和のためのスポーツ～平和構築と災害復興の視点から～
 ② 万人のスポーツへのアクセス(女性、障害者、高齢者、子供、若者等)
 ③ スポーツ・インテグリティの保護(アンチドーピング、八百長、不正行為等)
 (4) 全体まとめ

文化イベント

世界経済フォーラムとの連携について



世界経済フォーラム（WEF）ジョイントプログラム 官民ワークショップイメージ

10月21日（金）	Tower Hall A	Sky Studio Room	Tower Hall B	Collaboration Room 1+2	Conference Room 7
9:00～10:00	Performing Under Pressure	Creative Education	テクノロジーは人間から何を奪うのか	身体障がい個性となる未来～機能不全の克服～	スポーツが育む“地元愛”企業にできることとは
休憩			30分		
10:30～11:30	Rebuilding Trust in Sport	Active by Design	Future Tokyo as Innovative City	企業は、アスリートと国民の絆を結べるか？	日本のポップカルチャーの可能性: Beyond Cool Japan
休憩			15分		
11:45～12:30 昼食	75min			ランチセッション: 東大寺1300年の歴史に見る持続可能な経営	ランチセッション: Communi-TEA
休憩			15分		
12:45～13:45	The Rise of the E-Athlete	Judo: Mastering the Way	健康がお金を生む？	サーキュラーエコノミーがもたらす経済成長	新しい観光
休憩			30分		
14:15～15:15	The Transformative Impact of Sport	Growing up Digital	技術革新による、豊かな高齢社会実現に向けて	再生医療の将来	エンタテインメントはデジタルでどのように進化するのか
休憩			30分		
15:45～17:00	Transforming the Creative Industries	Your Health in a Virtual World	2020年以降のレガシーに向けたパブリックセーフティ	金融ジェロントロジー	2050年の食を考える

「日本再興戦略」2016（抄）
（平成28年6月2日閣議決定）

改革のモメンタム ～「改革2020」の推進～

（対日直接投資の拡大とビジネス環境の改善・向上）

(6)対日直接投資拡大に向けた誘致方策

③現在までの取組状況

2016年10月のスポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催に向け、昨年7月に「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム官民協働実行委員会」を開催し、関係省庁や経済界、地方公共団体とも協力し、オールジャパンで本フォーラムを実施する体制を整備した。

④主な課題・今後の取組

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムについては、成長戦略の内容のPR等に向けた検討を具体化することに加え、世界経済フォーラムと連携して実施する官民ワークショップ等の議論の成果を検討し、「改革2020プロジェクト」をはじめとする政府の成長戦略に反映する等、対日直接投資拡大に向けた施策との連携を図る。

「日本再興戦略」2016（別冊）「改革2020プロジェクト」2016（抄）
（平成28年6月2日閣議決定）

()対日直接投資の拡大とビジネス環境等の改善・向上

6. 対日直接投資の拡大に向けた誘致方策

(2) 今後の取組の具体的内容

（前略）

2016年10月に開催される「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」については、成長戦略の内容のPRに向けた検討を具体化することに加え、世界経済フォーラムと連携して実施する官民ワークショップ等の議論の成果を検討し、「改革2020プロジェクト」をはじめとする政府の成長戦略に反映する等、対日直接投資拡大に向けた施策との連携を図る。

まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015改訂版)(抄)
(平成27年12月24日閣議決定)

(1)地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

(イ)観光業を強化する地域における連携体制の構築

(1)-(イ)-② 多様な地域の資源を活用したコンテンツづくり

(前略)

オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの波及によるスポーツを地域資源とした地域活性化を推進するとともに、文化プログラム等のキックオフイベントとして、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会後の秋に、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム()」を開催し、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形の遺産等について議論、情報発信を行う。

()2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会直後の10月19日～22日に京都と東京で開催する。各国のスポーツ大臣を集めた国際会議や各地方公共団体と連携した文化関連行事を行うとともに、「世界経済フォーラム」と連携して開催し、世界に広く日本の魅力を発信する。

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会に向けた政府の取組(抄)
(平成27年11月27日内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局公表)

1. 大会の円滑な準備及び運営

⑦教育・国際貢献等によるオリンピック・パラリンピックムーブメントの普及、ボランティア等の機運醸成

○スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催:文部科学省等

「日本再興戦略」改訂2015（別冊）改革2020プロジェクト(抄)
(平成27年6月30日閣議決定)

参考

() 対日直接投資の拡大とビジネス環境等の改善・向上

6. 対日直接投資の拡大に向けた誘致方策

(2) 取組の具体的内容

③ 世界経済フォーラムと「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の連携開催機会の活用

・2016年秋に、経済界、地方公共団体の協力を得て、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」を開催する()。同フォーラムは、「世界経済フォーラム」と連携して開催する予定であり、「世界経済フォーラム」ヤング・グローバル・リーダーズの会議も同時期に開催される予定である。両会議への参加者の強力なグローバル発信力を活用し、最先端科学技術等をテーマとして「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」と「世界経済フォーラム」とのジョイントセッションを設けるなど投資誘致の取組を行う。

() 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピックムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとすることを検討。

経済財政運営と改革の基本方針2015(抄)
(平成27年6月30日閣議決定)

3. まち・ひと・しごとの創生と地域の好循環を支える地域の活性化

[3] 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組

(前略)

東京大会を契機として、スポーツと文化芸術によるレガシー創出の観点から、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの国内外への展開、文化プログラムの推進、日本の魅力の発信を進めるとともに、関連情報の収集分析の強化などセキュリティ・安全安心対策、ホストシティ・タウン構想の推進など東京大会と連携した地域交流・地域活性化、税関・出入国管理・検疫(CIQ)の計画的な体制整備、観客・関係者の円滑な輸送、国際的注目度を活かした訪日プロモーションや外国人旅行者の受入れ環境整備、先進的なバリアフリー対応、環境対策等を着実に進める。また、2016年リオ大会後の機運を国際的に高める取組の検討を行う。

(後略)